



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97. 11. 28 No. 4700

超低額・格差回答弾劾!

11/26 貨物緊急集会成功!



十一月二六日一三時より、千葉機関区において「JR貨物の年末手当格差回答粉砕! 緊急総決起集会」を九〇名の参加のもと開催した。
集会は後藤本部執行委員の司会で始まり、次に布施副委員長より、年末一時金交渉の状況と経過、情勢が報告された。報告の最後に、布施副委員長は貨物の格差を東日本の組合員がわがものとし、貨物の組合員は東日本の強制配転者のことや、予科生差別問題をわがものとして闘わなければならない。革マル・



▲決意表明する千葉機関区支部石川副支部長(左)と新小岩支部服部書記長

全支部から結集・怒りの発言

JR総連・日貨労は、貨物格差を怒るのではなく、前提的にこれを受け入れるところから会社のフトコロに入り、「国鉄改革に協力した者の成績率」をアツプしろと要求している。貨物格差やこの間の塩漬けなど色々な問題は、JR総連解体しかないことをはっきりと確認し、あらたな団結強化をかちとろうとすめくくった。

つづいて貨物支部からの決意

にうつり、千葉機関区支部石川副支部長は「夏季手当なみと予想される年末手当では生活していけない。ローンも払えない。」と怒りに燃えて発言し、新小岩支部の服部書記長は、「年々超低額で、怒りを感じる。出ても夏並みなどというウワサが流されては絶対に許せない。なにがなんでも分割・民営化の枠組みを変えないとダメだ。恒常的スト態勢を堅持してがんばります。」と怒りをこめて決意を明らかにした。

つぎに旅客各支部代表が登場し、代表して館山支部笹生支部長から「旅客並みの手当をかちとるため、全体でがんばりましょう!」と力を込めた決意表明が行なわれた。

集会の最後に、本部川崎執行委員よりまとめとして、九七年年末を強制配転、予科生登用差別問題を総力をあげて闘おう。当面する取り組みとしては署名運動をやりきり、JR総連解体・組織拡大にむけて全力をあげようと言った。

最後に布施副委員長の団結カンパローで集会は終了した。

(千葉機関区支部通信員)

